

草花を通しての情操教育

——校務分掌，教科からの実践——

足利市立第二中学校教諭 岡田明男

1 はじめに

情操教育は、独立した教育ではなく、各教科や各領域のなかで覚せい的につちかわれるものであるといわれる。教科によって、情操教育をどのように位置づけるかが問題となるが、私の担当する技術・家庭科は、日常生活とのかかわりあいの上で物を作る過程のなかに他の教科にない教師と生徒たちとの人間的な心のふれあいももてる場が多い。その教科内容の中でも3年の栽培は、機械、電気などとまったく異質のものであるが、科学的知識にもとづく実践ということが入っている。栽培を技術・家庭科的指導とともに情操教育をどのようにしたらよいかと考えてみた。また、生徒会の担当として、自主、自治的活動の助長を図らせる指導の中で、生徒たちの身近なものなかに、学校内での奉仕場面を通しての指導実践の経過と実践を通しての生徒の声をもって報告してみたい。

2 実践の経過

昭和47年・・・校舎改築・・・花壇を生徒会予算にて、労力奉仕をもってつくる。菊栽培を始める。

昭和48年・・・卒業記念の温室できる。・・・温室での草花栽培を始める。

昭和48年・・・ブロック花壇(4)、憩いのベンチ(4)を生徒会予算にて購入する。

昭和49年・・・フラワープランター(12)を生徒会予算で、同じ型のものPTAの1円募金で(6)購入する。

3 実践の報告

(1) 生徒会での活動を通して

僕たちの緑化運動

3年 T・W

僕たちの執行部も、昨年にならい、数々の事業を行なってきました。その中で、特に重点をおいたのは、学校の緑化運動でした。昨年、一昨年と先輩方が学校の緑化に力を注ぎ、その後を僕たちが受けつぎ、行なったわけですが、なぜこのようなことが行なわれるようになったかといいますと、それは2中の校舎がまだ建てなおしたばかりのとき、つまり一昨年の執行部の時、あまりにも校庭に緑がなく、なんとなく自然との触れあいがいのように感じた先輩たちが、中庭に、花壇を造ったのがきっかけでした。そして昨年はブロック式の花壇を購入し、玄関や校舎の横などに置いて、生徒の目をうるおし、今年は、それを一歩進めて、フラワープランターを購入し、各階の教室の前に置くなどして、学校の緑化を進めてきました。

昔の古い木造の校舎をこわし、鉄筋コンクリートの校舎にしたということは、いろいろな面で、よくなったといえますが、また、それと並行して、人間、つまり生徒と自然というものの交わりがなくなってきてしまうような気がします。いわゆる、近代化というものの中にできたはずみです。

まわりがどんどん変化していくと、身や心を休ませるところがなくなってきました。そのようなとき、自然に親しみ、緑をながめるなどすれば、心も自然となごんでくるはずです。自然とは、人間の心よりどころのひとつなのです。

今、このような時代ですから、僕たちの進めてきた緑化運動はとても大切なことだったと思います。これからも、先輩や僕たちの意志をひきついでこの学校に緑を多くする運動をしていってもらいたいと思います。

(2) 科活動を通して

菊づくりをして

3年 T・S

正直いって「菊をつくる」と先生がいわれたとき、なんの感動もなかった。「ああ、菊をつくるのか。」ただ、それだけだった。けれども、その気持ちも、だんだんと変わっていった。

最初、落葉をくささせたものを、グループで手でもんで細かく鉢に入れる土をつくった。イモ虫が入っているものもあり、とりのぞいた。それから土の酸性やアルカリ性、花の種類や開花時期、電照栽培などについて授業を受けた。普通なら、あきてしまうのだが、実習がともなうので、おもしろくさえかんじられた。英語や数学などでは習うことのできない、土や植物の顔や心に触れることができたのが最も心に残っている。

夏休みの水くれは、他の人が遊んでいるのを横目でみながら、さぼろうと思いつつも、どうにか来て水くれをやることができた。やっている時はイヤだなあと思ったけれど、後になって菊が快く成長したのを見て、やってよかったと思うことができた。

それや、これやで、11月になり、色とりどりのつぼみをつけ、ふくらみ、そして美しい花を菊がつけたのを見ると、菊づくりを経験するよとできたことを本当によかったと思っている。

菊づくりをして

3年 F・O

菊づくりにかぎらず花をつくるということは、ぼくにとって初めての体験であった。なにしろ、始めてなので、やることやることみんな知らないことばかりであった。菊など簡単にできると思っていたのだが、やってみるといろいろ大変なのでまいってしまいました。時に今でも印象に残っているのは、あの菊鉢に害虫防除のため劇物をまいたときのことでした。あのなんともいえないへんなにおい、今でも考えると「ゲー」とはいてしまいそうになる。しかし、今となると、よい思い出である。「ぼくのまいたおかげで害虫から花が守れた。」と思うと、ほこらしい気持ちにすらなってきます。また、あの夏の暑いさかりに汗水たらして菊に水をくれたことが目にうかんできます。今ぼくらのクラス、学校中のどのクラスにもきれいな菊の花がさしてあります。これは、ぼくたちがつくったのかと思うと何となく満足感がわいてきます。短い間のことだったが、ほんとうによい体験をしたと思っています。

菊づくりをして

3年 F・K

ぼくは、朝、登校して菊の花が咲いているのを見たとき「やった、やっと半年間の苦勞が実った。」と思いました。ぼくは苗から花をつくるまで初めての経験なので、それだけにうれしいの

です。

先輩たちが取ってくれた腐葉土を鉢に入れたのが半年前、その後いろいろな作業過程を通ってきました。長かったようで短くもう菊の咲く季節も終わりです。これから、後輩たちに菊づくりをいつまでも続けていてもらいたいと思います。そして私たちが卒業して母校に来て、いつも菊の植えた鉢が置いてあればいいと思います。

4 ま と め

いま2月、葉ボタンが冬枯れの景色の中で、ひときわ美しい色どりを各教室の前や、玄関前のプランターに咲いている。このプランターに温室や花壇につくった苗から移植して、四季おりおりの草花を咲かせ、授業のあいまの休み時間、昼休み、放課後の憩いのひととき、そばにある草花をながめおだやかな心をはぐくみたいと願っている。それには教師と生徒が一体となって作業し、一本の樹、一株の花も汗の結晶として開花することによって、現況の暗い社会情勢の中で、身近かなところから明るいムードをとともそうと心がけたい。いま、春の訪れをまつように、移植をまつ温室の草花がチューリップ、水仙、ヒヤシンス、パンジー、アネモネ、キンセンカがすくすくと育ち、早いものは、つぼみをもち、ふくらみをもっている。それを外に出さねばと思いつつ、いま生徒と共に鉢に水くれなどの手入れをしつつ、生徒といろいろな語らいをもっている。

評

この実践記録「草花を通しての情操教育」は、学校における情操教育についての本質を提示し、情操教育の進むべき道を示している。緑化運動、菊づくり作業をみても、そこには生徒の「体験の重視」と、その結果得られた「満足感」の強調がありまことに意義深い。生徒作文にある「植物の顔や心にふれ」「半年間の苦勞が実った」という感じ方「作業過程の中で」の実感の重視、これらは岡田先生の情操に対する正しい認識と情操が育成されるプロセスの正確な把握があって初めてなされることである。ややもすれば、論理的な面や間接的な方法で情操教育を進めるような傾向がある中で「体験を重視することによる情操教育」は価値あることである。さらに感銘深いものは、「いま生徒と共に鉢に水くれなどの手入れをしつつ、生徒といろいろな語らいをもっている」教師の姿である。生徒と共にあることの必要性を強く理解していながらも実行できない人の多い中で、この実行力こそ、情操教育の真髄であろう。